

平成28年
(2016年)

夏号

大津・南部の農業

発行

滋賀県大津・南部農業農村
振興事務所農産普及課
草津市草津三丁目14-75
TEL 077-567-5421~5423
FAX 077-562-8144
メールアドレス ga35@pref.shiga.lg.jp
発行責任者 古谷 博幸

この印刷物は古紙/バブルを配合しています。

今、みんなで地域の農業、集落の将来を考えてみよう

農業は大きな曲がり角にさしかかっています。下の表は、農業センサスのここ15年の農家数の変化を示したものです。

農家数の変化

	大津市	草津市	守山市	栗東市	野洲市	管内計	県内計
2015	2,955	1,309	1,261	948	1,092	7,565	29,022
2010	3,477	1,555	1,649	1,111	1,423	9,215	36,020
2005	3,777	1,826	2,044	1,260	1,698	10,605	43,363
2000	4,132	2,024	2,290	1,327	1,984	11,757	48,719
2015/2000	72%	65%	55%	71%	55%	64%	60%

出典；2000,2005,2010,2015 世界農林業センサス 農林業センサス

この表が示すように、ここ10年足らずのうちに多くの農家が離農されました。また、担い手の方の高齢化もすすんでいます。これらのことから今まで活気のあった農村の状況も大きく変わってきています。このままで農業経営が続けられるのか、集落の農地が守れるのか、集落のコミュニティは維持できるのか、誰もが感じられていると思います。

地域での担い手を明確にし、今後の施策を集中するため、「人・農地プラン」の策定を推進しています。この取組とあわせて、もう一度地域の農業、集落の将来をみんなで話し合ってみてはいかがでしょうか。担い手に農地を預けるだけでなく、自分の住む農村の豊かな環境をみんなでどう守っていくかを今一度この時に考える必要はないでしょうか。県では、昨年「地域農業戦略指針」を策定し、今後の地域農業の在り方を考えようとする運動を始めました。

今年はこの取組を強化するために、先進地の取組を勉強する研修会や、集落リーダーの方の情報交換の場を設けていこうと考えています。また、個別の集落支援も計画しています。この情報誌でも、今後この取組結果を紹介していく予定です。



6次産業化でやる気アップ！収益アップ！

1 地元大学と連携した「アスリート饅頭」誕生

大津市の女性起業組織「北比良グループ」は、JR比良駅前で軽食等を提供する「ほっとすていしょん比良」を運営されています。びわこ成蹊スポーツ大学生の最寄り駅となり毎日多くの学生が乗降されていることもあり、イベント用菜の花の定植の手伝いをしてもらうなど連携していました。グループでは、今までとはターゲットを変えた新商品を考えている中、大学生を応援できる補食ができないかと同大学に相談を持ちかけ、スポーツ栄養学面からのアドバイスを受けると同時に、大学生との意見交換会等で商品に対する意見をもらいました。



アスリート饅頭

「アスリート饅頭」は、北比良産のもち米、うるち米、野菜、大豆を多く使った炊き込みおこわを小麦粉の皮で包んだ蒸し饅頭で、炭水化物、たんぱく質、脂質のバランスやカロリー等を考慮した商品に仕上がりました。



大学生との意見交換会

現在、びわこ成蹊スポーツ大学の売店と「ほっとすていしょん比良」で販売しています。今後量産体制を整え、販路拡大する予定です。

2 6次産業化総合化事業計画に基づく新商品の開発・販売

農林水産事業者が6次産業化に取り組む場合に「6次産業化・地産地消法」に基づき、「6次産業化総合化事業計画」を作成して国の認定を受けると、新商品開発、市場評価の実施等に対する支援を受けることができます。大津・南部地域では、平成23年度以降11事業者の計画が認定されています。

平成26年5月に認定を受けた草津市の(株)横江ファームでは、自社栽培野菜の小松菜を利用した「ドレッシング」の開発に取り組み商品化されています。商品化にあたっては、県から派遣された6次産業化プランナーから、商品開発だけでなく、商談の進め方、販路開拓等についてアドバイスを受け検討を進められました。今後も、総合化事業計画に基づき、新たな商品の開発をすすめられる予定です。



小松菜商品

県では、新たに6次産業化に取り組む方々の支援を行っています。詳しくは当課までお問い合わせください。

秋～冬どりの野菜や花を作ってみませんか？

1 秋どりスイートコーン

スイートコーンといえば夏の食べ物というイメージを多くの方々が持っているのではないのでしょうか。実際、主要な市場での国産生鮮品の取扱量は6～8月の3か月が最も多く、9月以降は極端に少なくなっています。直売所での販売量も同様の傾向が見られます。一方で、スイートコーンの冷凍品の輸入量は、毎年4～5万t前後で推移しており、年間を通して一定の需要があることがうかがえます。今回ご紹介する秋どりの作型は、7月上旬から8月上旬に播種し、9月中旬～11月上旬に収穫できます。一般的に青果としてのスイートコーンの流通量が少なくなる時期であることから、直売所等の新たな品目としての販売が期待できます。栽培に挑戦してみてはいかがでしょうか？

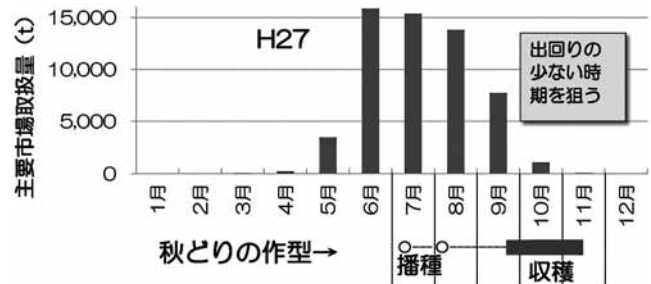


図 国内の主要な卸売市場でのスイートコーンの月別取扱量と秋どりスイートコーンの作型

【秋どり栽培のポイント】

- ① 品種は85日タイプ以上の中晩生を使います。
- ② 播種は8月10日ごろまでに行います。
- ③ 雄穂が出るころから収穫までの定期的な害虫防除を実施します。
- ④ 台風による倒伏で管理が困難にならないように風向に沿って畝を立てます。

2 水稻育苗ハウスを活用した秋～冬どり切り花

赤やピンク、黄色など色とりどりの花は、直売所の雰囲気を華やかにしてくれる人気商品のひとつです。

今号では水稻育苗ハウスを活用してこれから栽培できる秋冬向けの花を紹介します。興味を持たれた方は農産普及課まで気軽にご相談ください。

品目	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
寒小ギク	◎-▽	×							
スプレーストック		○	▽		×				
キンギョソウ	○	▽							
切り花ハボタン	○	▽							
キンセンカ			○	▽	×				

◎:挿し芽 ○:播種 ▽:定植 ×:摘心(摘蕾) □:収穫



スプレーストック



キンギョソウ

吉川野菜生産出荷組合青年部が設立されました

野洲市の吉川野菜生産出荷組合は、高齢化が進み、組合設立（昭和55年）時より組合員が3分の1程度まで減少していますが、組合員の後継者を主体に30～40代の若手農業者が10名程度おられます。同組合では、将来の組合を担う人材の育成と組合の活性化に向けて、平成28年1月に青年部が設立されました。



青年部による親株の移植作業

吉川地区の冬期の主力品目である「しゅんぎく」は、連作による病害の蔓延により生産量の低下が顕著となっています。特に27年作は気象の影響もあり、「炭疽病」が多発し収量低下が問題化しました。

そこで、炭疽病対策に有効な無病種子を確保する目的で、青年部が中心となり採種ほの設置に取り組みることになりました。青年部や組合員の中から無病の採種用の親株の提供を受け、28年3月に移植されました。

今後は、採種した種子の発病程度の観察や品質評価、将来的には無病種子の安定供給に取り組んでいこうとメンバーは意欲満々です。

新指導農業士紹介 ～ 池田 正章 さん～

指導農業士制度は、青年農業者の育成、農業振興のリーダーとして活躍して頂く農業者を市からの推薦により、県が認定する制度で、本年度草津市の池田正章さんが認定されました。

池田さんは、ハウス約15,000㎡で「みずな」「葉ねぎ」等を栽培され、また、地域の農業者とともに、「愛彩菜（わさび菜）」「アスパラガス」にも取り組み、産地の新たな品目を模索しておられます。

また、氏は就農後、地域での担い手の高齢化や後継者のいない農業者が増えていることを見据え、雇用や規模拡大を行うため、法人を立ち上げ就農希望者や担い手不在の空きハウスの受入れ先となり産地の維持にも尽力されています。

「時代のニーズにあった野菜を導入し、新規就農者や雇用を確保することが産地の活性化に繋がる」と語っていただきました。



滋賀県立農業大学校で農業を学びませんか？

養成科願書受付期間 推薦入試：平成28年10月3日(月)～10月18日(火)

一般入試(一次)：平成28年11月22日(火)～12月6日(火)

詳しくは農業大学校(0748-46-2551)または農産普及課までお問い合わせください。